

湯前町立湯前小学校 第5学年 体育科 学習構想案（簡略型）
 日 時 令和7年12月3日（水）第3校時
 場 所 体育館
 指導者 教諭 津崎 香音

1 単元構想

単元名	カノンピック発表会（マット運動）													
単元の目標	(1) マット運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技を身に付けることができるようとする。 (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。 (3) マット運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考え方や取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようとする。													
単元の評価規準	知識・技能 ①回転系や巧技系の基本的な技を安定して行うことができる。 ②回転系や巧技系の発展技を行うことができる。 ③回転系や巧技系の技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。		思考・判断・表現 ①自己や仲間の能力に適した演技（作品）を構成している。 ②演技（作品）の完成に向け、練習方法を考えたり、練習の場や段階を選んだりしている。 ③演技（作品）の完成のために、自己や仲間の考えたことをグループ内に伝えている。		主体的に学習に取り組む態度 ①演技（作品）の完成に向けて練習に積極的に取り組もうとしている。 ②演技（作品）の完成に向けて仲間と協力している。 ③器械・器具の準備や片付けなど分担された役割を果たそうとしている。 ④場の安全に気を配っている。									
単元終了時の児童の姿（単元のゴール）														
回転系や巧技系の技などで構成した演技（作品）に取り組み、マット運動の楽しさを感じるとともに、仲間とともに活動し、演技（作品）をつくりあげる喜びを味わう児童。														
単元を通した学習課題		本単元で働くさせる見方・考え方												
自己や仲間のできる技、できそうな技を組み合わせて演技をして楽しもう。		回転系や巧技系の技を「する」、仲間や他グループの演技を「みる」、活動や発表会を仲間と協力して「支える」、回転系や巧技系の技の名称ややり方を「知る」といったマット運動との多様なかかわり方で楽しむこと。												
指導計画（8時間取扱い 本時 5／8）														
1	2	3	4	5（本時）	6	7	8							
オリエンテーション	準備・準備運動													
	スキルアップ活動													
	めあて・活動内容の確認													
準備運動場の設定	ミーティング 演技（作品）づくり	ミーティング 中間発表会	ミーティング 練習タイム	練習タイム			練習タイム							
								力試し タイム						
				スキルアップ 活動	練習タイム	練習タイム	ミーティング	練習タイム	発表会					
まとめ・振り返り・片付け														

2 本单元（本時）における合理的配慮について

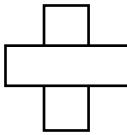
- 体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず、誰もが自分にできる技や動きで演技（作品）に参加できるように課題（演技（作品）づくり）を設定する。
- 取り組む技や動きと類似した動き方を行うローテーション活動の中で、技や動きに対する苦手意識が強い児童が、必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くよう、必要な支援や助言を行う。

3 本時の学習

(1) 目標

中間発表の演技（作品）の出来を基に、演技（作品）の完成に向けて修正すべきことやこれからの課題について、自己や仲間の考えたことをグループ内に伝えている。
(思考・判断・表現)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の言動)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10	1 グループで準備・準備運動を行う。 ① 場の準備（安全確認） ② 準備運動 2 スキルアップ活動を行う。 (約4分間) ・かえるとび ・ブリッジ ・倒立 ・川（マット）越え ・方向変換 3 本時の学習を確認する。 ① めあて ② 学習内容 ③ 学習課題	○安全を確認しながら準備するようにする。 ○けがをしないよう、準備運動をしっかりと行うようにする。 ○各運動が技や動きと類似したものとなっていて、必要な体の動かし方や運動感覚が身に付くことを意識して取り組むようにする。
		【めあて】 自分たちの演技（作品）をよりよいものにするための中間発表会にしよう	
展開	30	【学習課題】 中間発表の演技（作品）の出来から、修正点や課題を見つけること（これからの学習に生かす）	○本時は、中間発表がゴールではなく、その後のミーティングが重要であることを意識するようにする。
		4 中間発表会 [場]  演技順 ①A班 ②B班 ③C班 ④D班 ⑤E班	○中間発表は、通し練習を行った後、本番という形で実施する。 ○演技しない班は、ビデオ撮影に協力する。 ○自分たちの演技（作品）に生かせるものはないかという視点を持たせ、他グループの演技（作品）を見るようにする。 ○他グループの演技（作品）を見た後、アドバイスカードを作成するようにする。
終末	5	5 ミーティング ① ビデオで自分たちの演技（作品）を見る。 ② 修正点や課題について考えを出し合い、演技（作品）をよりよいものにする。 【期待される学びの姿】 カノンピック発表会に向けて、自分たちの演技（作品）をよりよいものにしようと、仲間と話し合ったり協力し合ったりしている。	【具体的評価規準】 思考・判断・表現 中間発表会の出来を基に、修正点や課題について、自己や仲間の考えをグループ内で伝えている。（方法：観察、学習シート） 【視点】 技の精度や難易度、仲間や曲とのタイミングなど 【到達していない児童への手立て】 ○他グループの演技（作品）と比較して、自分たちの演技（作品）はどうだったかを考えるようにする。
		6 まとめ・振り返り 【まとめ】 今日学習したように、発表会にむけて、これからも修正点や課題を解決しながら、演技（作品）をよりよいものにしていくことが大切である。	○発表会が楽しみになるような雰囲気をつくるようにする。
		7 片付けをする。	